

# いたちかわらばん

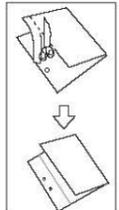
通刊 74号 鮎川・狹川 / 川原番・瓦版 '16 秋号



【版画 宗森英夫】

柏陽高校裏

この部分を  
切り取って  
ファイルにす  
ると便利です



「いたち川」全国に3か所!!

全国の河川名を調べると「いたち川」は3河川あります。横浜市のほかには富山市と大阪市にあります。現存する河川は横浜市と富山市だけです。3年前に富山市との交流会が開催されたことは瓦版68号で紹介しました。今年3月に北陸旅行を機に現地を訪れてみましたので紹介いたします。

富山の「いたち川」は、立山連峰から流れ出る常願寺川と松川（神通川に合流）を結ぶ13kmの農業用水として造られた川で、その使役（労力）を「えだち」と言い、それが転訛し「いたち」になったと言われています。

富山駅西方向に10分位歩くといたち川につき当たります。その川は、川幅は我がいたち川と同じ位ですが水量は全面を流れて両岸にはひと抱えもある桜並木が美しい川面を形成していました。川沿いを上流へ歩いていくと、延命地藏尊、文学の記念碑（蛭川文学碑、源氏鶏太の文学碑など）が点在しています。松川との合流点から上流2.7kmの間に19か所のお地藏さまと21本の橋があり、石倉町延命地藏尊と泉町一丁目、二丁目延命地藏尊の3か所を巡ってみました。道路脇には湧水があり多くの人がペットボトルで水を汲んでいました。立山連峰からの湧水は柔らかな感じの水で、私もペットボトルに入れて旅行の伴にしました。この湧水は江戸時代に大震災があり富山市内が泥流に呑み込まれ、悪疫が蔓延し多くの命が奪われたとき、川底（伏流水）より湧き出る水を飲んだことにより病気が快方に向かったもので、町の人はこの霊水の湧き出る所に延命地藏を祀って感謝していると言っていました。

町の人達の水への思いが深いことが分かりました。北陸地方に旅行される方は、富山のいたち川を観光してはいかがでしょうか。

（水・人・子）

## ☆荒井沢ウオーキングに参加して☆

自宅を出るときには曇行きが怪しくて心配しましたが、区役所を出発する頃には曇り空でウオーキングにはちょうど良い気温だと、思ったのも束の間で山道に差し掛かる頃には全員汗びっしょりでした。

雨上がりの湿り気が大量の蚊を発生させたようで、私たちはすっかり格好の餌場を提供した形になりました。しかし、地面には色々なキノコが顔を出していたし、ドングリの実がたくさん落ちていて秋の気配も感じられました。

皆城山展望台に到着した頃には青空が広がり爽やかな風が私たちを迎えてくれました。広がった視界の先には自宅まで見渡すことが出来ました。

中心地から徒歩1時間程の先にこんなにも素晴らしい自然があることに驚きと嬉しさを感じました。



山野草に詳しい和久井さんの説明に耳を傾けながら女性の参加者が多いこともあり賑やかなウオーキングを楽しむことができました。

（湯瀬 洋子）

## 読者からのたより

前回いたちかわらばんの山形県高島町の紹介を読んで高島町の思い出をお届けします。



山形新幹線の新駅舎はのどかな田園風景のなかに、とんがり屋根が特徴のおとぎの国を思わせるような可愛い駅舎内には温泉施設もある珍しい駅でした。

知人の紹介により、高島のお米を生産者からは電話だけで、顔も見ず知らずの当方に継続してお米を送ってもらっています。

昨年6月友人3人と「さくらんぼ狩り」を兼ねて天童温泉に行く途中、一度お会いしたくて高島駅に下車しました。ご夫婦で出迎えにこられて自宅に案内され、観光案内、昼食には米沢牛のスキヤキを御馳走になり大変美味しかった事など、初めての出会いで素朴な人柄に感激したものです。

山形は冬は大雪が積もり、夏には猛暑となり寒暖の差が大きいのでお米も果物も美味しいのだそうです。四方山のお話もして楽しい思い出になりました。

毎回かわら版を読んで多くの方が清掃活動に関与していることを知り共感しています。

（茅ヶ崎の読者）

## ☆春のウオーキング募集☆ 源流探査と早春の植物観察

いたち川の源流の一つである横浜自然観察の森内のコナラの谷からの湧水を観察します。早春の樹木や野草の花を発見してみませんか。

散策コース

長倉のバス停（金沢八景行神奈中バス）→長倉小川アメニティ→長倉住宅地内→横浜自然観察の森→コナラの谷→のぎくの広場→ヘイケホテルの湿地→自然観察センター→上郷森の家→上郷バス停解散

日時：平成29年3月14日（火）

10：00（集合）～13：00（解散予定）

\*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

集合場所：長倉町バス停

参加費：100円（保険料等）

持ち物：飲み物、昼食、雨具

参加人数：20名（先着順）

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・

氏名・性別・年齢・電話番号を明記の上、

平成29年2月21日（火）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19

（電話）894-8161 （FAX）894-9127

（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係担当

※内容については、

和久井（いたち川 OTASUKE 隊、080-3498-0552）まで



（きぶし）

発行年月  
2016年11月

通刊74号

## 発行：狹川OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係

栄土木事務所下水道・公園係

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1  
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

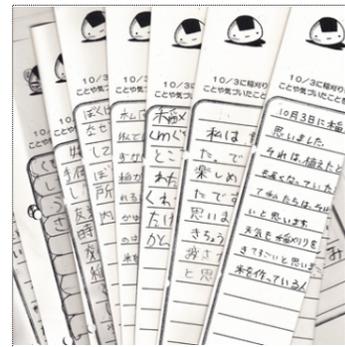
（お便り・お問い合わせはこちらまで）

※ 荒井沢市民の森での稲作体験 ※

荒井沢市民の森愛護会では、谷戸田を利用して 14 年前から近隣の小学校の授業の一環として、稲作体験学習のお手伝いをしてきました。当初は3校でしたが現在は、公田小、桂台小の2校で児童 100 数名によって、米作りの体験学習を行っています。

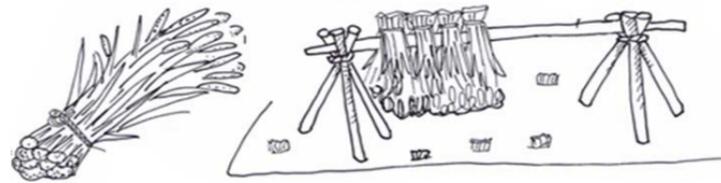
米作りは、田おこし、種まき、田植え、雑草取り、稲刈り、脱穀、籾摺り、精米まで多くの工程があります。日常管理として水の管理や害虫の駆除など数えきれない作業が必要です。子供たちには6月の田植えと10月の稲刈りを体験してもらいました。

今回、稲刈り体験をした児童 38 名の感想文が届きましたので、紹介いたします。



(公田米を育てよう)を題材とした学習カードには、多数の児童が米作りはたいへんだけど楽しかったので、又体験してみたい思いが書かれていました。

稲刈りを「のこぎりカマ」で刈り取ることを知り、驚いた人も多く、刈り取ったイネを束ねて干すまで皆で協力しておこなったことを絵入りで説明していました。



〇コメ作りは、大変な労力が必要で機械の無かった昔は大変だったことが分かりました。これからは、おいしいお米を大切に食べたいと思った。

〇稲刈りをおこなって、みんなと協力することを学べたと思う。みんながバケツルーで運んだり渡したり干したりする事を学びました。

〇米という字は、八十八から出来ていて、作業工程が多く苦労が多いことを学びました。

〇ぼくはこの経験をいろいろの人に教えたい。お米を普通に食べているけど農家の人の苦労が良くわかった。

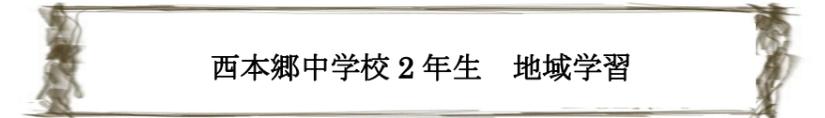
〇実際の大きい田んぼの稲刈りは機械化が進んでいて、手作業は少ないそうです。手での刈り取りは手際よくやらなければいけないことに気が付きました。自分たちで作ったお米を早く食べたいです。

「お米作り方の学習」は米作りの方法や米作りの大変さや大切さを感じてもらい、稲を育てる喜びを知ってもらう事が大切で、今後も学校と協力して継続して行きたいと思っています。児童の感想文から教えられたこと。

- 1、お米が出来るまでを知って感謝する気持ちが湧いたこと。
- 2、土が水と触れ合うことで自然とのかかわりが分かったこと。
- 3、無心で作業を行い、皆と協力する必要性が分かったこと。
- 4、現代社会では自然との触れ合う機会が減っており、お米作り体験は貴重であること。(荒井沢市民の森愛護会)

連載の初版「いたち川情報マップ」の紹介 第4弾!!は今回は休みます。予定していました、水の循環、分流式下水道、水質保全のためには次回掲載いたします。

(水・人・子)



私たち西本郷中学校2年生は、今年6月より総合的な時間を使って栄区についての学習を進めてきました。この学習を始めるにあたり、まずは栄区のシンボリック「いたち川」について理解を深めようと「いたち川 OTASUKE 隊」の和久井さんにお話を伺いました。

「いたち川は世界的に有名な川」「海外から、いたち川を視察に多くの外国の方がいらっしゃるのです」という和久井さんの言葉に生徒たちはびっくり。いたち川といえば、私たち西本郷中学校生にとっては通学路であったり、部活動の時のランニングコースだったりすると身近な川、その川が実は外国人が視察に訪れる世界的有名な川だったとは!

今回の学習は栄区の自然、歴史、産業について班でテーマを設けて調べる学習だったので「いたち川」だけがテーマだったわけではないのですが、和久井さんのお話が大変印象的だったこともあり、全部で24班のうち5班が「いたち川」を調べることになりました。テーマが重ならないように5班がそれぞれ、「いたち川と鳥」「いたち川と魚」「いたち川と歴史」「いたち川と橋」「いたち川と植物」についてさらに追及することになりました。各班、図書館の資料やインターネットで検索した資料をもとに調査をすすめる9月12日(月)には、午後の3時間を使ってフィールドワークを行いました。いたち川の歴史、橋について自分たちで調べたことを現地で検証できるとしても、植物、魚、鳥は、やはりよく知っている方に教えてもらいたい、ということで植物について調べる班、魚について調べる班はまた和久井さんに案内をお願いしました。そのときの生徒の感想を紹介します。

「自分たちで調べるだけではよくわからない植物、例えば朝と夕方で色が変わるフヨウという花があることを教えてもらいました。いたち川についてもあらためて知ることができとても楽しかったです。」

「川面に下りる階段の向きが魚のための工夫だということを知りました。階段が上流から下流に向かってついていることで増水したときでも魚が激流に押し流されずに避難できるように、そんな工夫がつまっているいたち川に感動しました。」

鳥について調べる班はいたち川 OTASUKE 隊の佐藤さんに案内をお願いしました。

「いたち川をたった2時間歩いただけで、8種類もの鳥を見ることができました。なかなか見ることのできない色鮮やかなカワセミを3回も見ることができ、いたち川はたくさんの鳥たちが住む自然豊かな川であることを実感しました。この川を守るために、自然を大切にしていきたいという思いを強く持ちました。」 今回の成果はフィールドワーク後に行われたクラス、学年発表会で披露しました。

今年中には『栄区ガイドブック西本郷中版』として冊子を発行する予定にしています。(教諭 出村 綾乃)

◆いたち川まつりに参加して◆

8月21日、栄区役所裏の大きいち小いたち橋を起点に、第4回「いたち川まつり」が開催されました。橋の周辺には出店が並び、子供を連れた多くの父兄が参加して橋の周囲に集まっています。

会場は大いたち小いたち橋から下流の城山橋までの間です。右岸の桜並木には蝉が盛んに飛び交う快晴の暑い日でした。開会は9時30分からでしたが、開会の前に参加者にポリ袋が渡され、天神橋から下流の城山橋間の川の周囲と遊歩道のゴミ拾いが行われました。私も遊歩道を細かく目配りをしてゴミを探し一周しましたが、さほど収穫はありませんでした。

主催者の挨拶があり、ようやく本番開始、2艘の箱船イカダと一人乗りのゴムボート2艘が用意され、待ちわびていた子供たちがイカダに乗り込みます。一艘のイカダに乗る客は多くて6名程度、そのイカダを曳く船頭は2〜3名。川の深さは浅い箇所30cm、深い所で50cm程度。他に一人乗りのゴムボートが2艘用意されていました。

イカダ、ゴムボートの両方共に階段下の乗船場から下流に約50m下って葦の茂み所で引き返します。

参加した見物客は川を挟んだ兩岸の遊歩道から川を見下ろしていました。

栄区のシンボルリバーで開催された楽しい夏のイベントでした。(上郷森の会 モモンガ)



イカダやゴムボートに乗って、いたち川を楽しむ